

「人は科学が苦手なのか」



講演者：日時：2019年8月7日（水） 18:00-20:00

場所：東京大学本郷キャンパス 工学部2号館 92B

概要：

地球温暖化を疑う大統領を生んだ米国。その首都ワシントンを中心に大統領選挙の現場などを取材しながら、「人々はいかに科学を受け止めているのか」について思いを巡らせました。その取材成果をまとめたのが、拙著「ルポ 人は科学が苦手——アメリカ『科学不信』の現場から」（光文社新書）です。

懐疑派大統領を生んだ背景には、「人が現代科学に適応できていない」という側面があるように思えました。科学者が期待するように、一般の人々は科学を「ありがたがって」受け止めるわけではありません。米国では今も、4分の3の人が「神のおかげで人類は誕生した」と考え、地球温暖化への懐疑論が根強い現実もあります。そんな現実の一方で、データや事実こだわりの科学者の発想を転換し、人々の気持ちに着目した科学コミュニケーションが広まっていました。

ところで、科学者は一般の人よりも「合理的」なのでしょうか。そんなことも議論してみたいと思います。

三井誠

京都大理学部卒。読売新聞記者。1999年から科学部で生命科学や環境問題などを担当。2013～14年、カリフォルニア大バークレー校客員研究員。15～18年、ワシントン支局で大統領選挙や科学コミュニケーションを取材した。